

学生受講結果アンケートまとめ

2017 年度

名古屋学芸大学 F D 推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では2007年度、名古屋学芸大学短期大学部では2000年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これはFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方(意識)を把握し、授業改善に役立てています。

2014年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更し、次の実施要項のとおり実施しています。

集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイトに公表させていただきます。

実施要項

学生による受講結果アンケート実施要項（2017年度）

名古屋学芸大学FD推進委員会

1. 目的

当「学生による受講結果アンケート」は、本学の教育の質の向上を目指すFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として実施するものであり、学生の授業の受け止め方(意識)を把握し授業改善に役立てることを目的とするものである。

2. 調査の実施方法等

| | |
|----------------|---|
| 実施時期 | 前期の13～15回目の授業で実施する。 |
| 実施方法 | 授業担当教員が、学生にアンケート用紙を配付し、学生に無記名で回答させ、担当教員が回収する。 |
| 調査の対象科目 | 【1教員1科目(1コマ・クラス)*1】授業担当教員（専任・非常勤）が受け持つ授業科目のうち、1科目(1コマ・クラス)をアンケートの調査対象とする。なお、オムニバス方式の授業や提出期限に間に合わない集中講義は原則としてその対象としない。 |
| アンケートの様式 | 授業形態（講義科目、演習科目、実験・実習科目）にかかわらず同一の様式を使用する。なお、必要に応じて教員独自の設問を設定することができる。 |
| アンケート用紙の配付(設置) | アンケート用紙を教員メールコーナー等に設置する。担当教員は各自で必要な枚数分を受け取り、上記の通り調査を実施する。*2 |

| | |
|-------------------|---|
| 調査済みアンケート用紙の回収・提出 | 担当教員は、調査終了後速やかに回収したアンケート用紙を封入し、指定された期日までに指定された場所(教務課または学部事務室)に提出する。*3 |
|-------------------|---|

注記)

- *1 1科目(1コマ・クラス)とは1科目に複数の授業(クラス)がある場合、**1授業(クラス)のみ実施**するという意味です。
- *2 2科目以上のアンケート実施をご希望の場合は、用紙準備の都合上、教務課までご連絡下さい。
- *3 提出ラベルに、**アンケートを実施した授業情報項目を正確にご記入**ください。

3. 調査結果の集計等

アンケートの集計は、外部機関(業者)に委託し次の通り行う。

- ① 各教員の授業ごとの集計
- ② 授業形態ごとに、大学全体、学部、学科、教養、教職(学芸員課程含む)全体の単位での集計

※自由記述欄の回答は集計の対象外とする。

4. 調査結果のフィードバックと「授業運営の振り返り」の提出

集計結果は、授業ごとのものは各授業担当者に配付する。授業担当者は結果を活用し「授業運営の振り返り」にて授業改善計画を提出し、学内ポータルサイトへ公開する。

5. 調査結果の取り扱い

全体集計結果(②のデータ)および「授業運営の振り返り」は、FD推進委員会の管理下に置き、調査結果の掌握及び分析に当たり、大学としての組織的な授業改善を目指す。またそのデータは、教務課で保管する。あわせて学科長の教員管理指導を強化し、学科内授業担当者の集計結果データを保管・閲覧することで、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用する。また集計結果については、大学全体の授業形態ごとの結果等を大学ウェブサイト等で公表する。

以上

アンケート設問

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思う数にマークしてください。

1. 学習目的の理解と達成状況について

(5 大変そう思う ← → 0 全くそう思わない)

① 私は、この授業の学習目的についてよく理解・納得している。 5-----4-----3-----2-----1-----0

② 私は、この授業の内容がよく理解できた／演習によく取り組むことができた。

- ・ 特によく理解（取り組み）できた部分 ()
- ・ 特に理解（取り組み）できなかった部分 ()

③ 私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った。

④ (今の考えとして) 私はこの授業の学習目的は達成できたと感じている。

⑤ 私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている。

2. 授業の運営について

⑥ 自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う。

⑦ 授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は、自分にとって適切なものであったと思う。

⑧ 成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う。

⑨ 授業の開始と終了の時間は適切であったと思う。

3. 担当教員独自設問

⑩

⑪

⑫

4. 自由記述

最後にこの授業について自由に記述してください。

- ・ この授業で特に良いと思った部分。 ()
- ・ この授業で改善した方がよいと思った部分。 ()
- ・ その他気づいた部分。 ()

振り返り活動の結果分析

1. 実施状況について

今年度も2014年度から採用している学生受講結果アンケートを使い、各教員が講義終了後の学生自身の学びに対する意識を調査した。実施方法は次の通りであった。

- ・教員が自分の全担当科目の中から一クラスを選択。
- ・授業13回目以降の授業内で、教員がアンケートを実施。
- ・教員が自ら回収して教務に提出。

このアンケートに対する過去3年間の教員参加率（各年度10月時点）を以下に示す。

＜表1 過去3年間における学生受講結果アンケート参加率＞

| | 2017年度 | | 2016年度 | | 2015年度 | |
|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| | 提出者数 | 提出率 | 提出者数 | 提出率 | 提出者数 | 提出率 |
| 学芸大 | 228 | 95% | 232 | 95% | 231 | 96% |
| 短大部 | — | — | 17 | 89% | 34 | 97% |
| 全体 | 228 | 95% | 249 | 94% | 265 | 96% |

2017年度より短期大学部は閉学となったため不参加である。過去3年間の参加率は95%前後と大きな変化はない。

教員は、このアンケート結果に対して、どうしてこのような値になったのかを各自で分析し、「授業運営の振り返り」としてまとめたものを学内ポータルサイト上に公開している。この振り返りの作成状況は以下の通りである。

＜表2 過去3年における「授業運営の振り返り」記述者割合＞

| | 2017年度 | | 2016年度 | | 2015年度 | |
|-----|--------|-----|--------|------|--------|-----|
| | 提出者数 | 提出率 | 提出者数 | 提出率 | 提出者数 | 提出率 |
| 学芸大 | 216 | 94% | 191 | 83% | 210 | 91% |
| 短大部 | — | — | 17 | 100% | 31 | 91% |
| 全体 | 216 | 94% | 208 | 84% | 241 | 91% |

学生受講結果アンケートについての提出者は昨年なみ、振り返りの記述者は昨年と比較して+11%と大きく増加した。関係各部署の努力の結果だと言えるが、逆に言うと、アンケート、振り返りとも5%程度毎回参加していない教員が存在しているのである。この中を調べてみると、うっかりミスで提出できなかった教員だけでなく、ほぼ毎年参加しない教員も数パーセント程度存在することが分かった。うっかりミスは毎年一定数生ずるので、これ以上参加率

を上げるためには、この頑固とも言える参加意欲を示さない数パーセントの教員への対策が必要になる。しかし相当の労力が要求されることは確実である。

2. アンケート結果

今年度も、

- ・学習目的をよく理解している、の設問で5（大変そう思う）か4（そう思う）に印を付けた学生でかつ
- ・学習目的を達成した実感がある、の設問で5か4を付けた学生でかつ
- ・今後学修を深めたいと考えている、の設問で5か4を付けた学生

の、全体における存在割合を示す「肯定評価率」を用いて、効果的授業の度合いを示す指標とした。昨年度と今年度の肯定評価率の変化を表3に示す。なお、()内各設問で5を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。

＜表3 15-17年度における肯定評価率の変化＞

| | 学芸大 | | | 短大部 | |
|-----------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 17年度 | 16年度 | 15年度 | 16年度 | 15年度 |
| 講義 | 39.9% (8.9%) | 35.4% (7.7%) | 37.1% (8.0%) | 34.9% (6.3%) | 30.9% (8.8%) |
| 演習 | 54.2% (13.9%) | 58.5% (16.4%) | 55.1% (13.8%) | 55.7% (11.3%) | 46.3% (18.3%) |
| 実験・ 実習 | 53.9% (14.8%) | 53.2% (15.2%) | 54.9% (14.5%) | 56.8% (25.7%) | 69.5% (20.6%) |

演習、実験・実習系は平年並みであったが、講義系科目については4.5%の大幅増であった。

3. 結果からみる成功事例

講義系科目が昨年と比較して大きく改善した原因は、FD活動が功を奏し、学生への参加を促すアクティブラーニングが浸透し始めてきていることではないだろうか。演習や実習はもともとそのような要素が強いので数値の変化はないと推測できる。

今年度学生受講結果アンケートについては、100%の肯定評価率を示す科目が7科目存在した。しかし、100%は卒業研究形式や数十名までのゼミ、演習形式のものが多く、むしろ特殊な状況とも言え、誰もが簡単に参考にできるものではない。また、肯定評価率は高ければ良く、低ければ即悪いと言うものでもない。授業改善で新しい事を試みたり、大人数で学生に理解させたりする必要がある科目は特に数値は上がりにくい。着目すべき科目は、値そのものではなく、低い値から大きく改善に成功した科目である。成功要因として教員は、そこに

どのような工夫を施したかが共通して知りたいノウハウとなっていく。そこで今回は、次の条件すべてを満たす科目に着目した。

- ・今年の肯定評価率から昨年の肯定評価率を引いた値が大きいもの。
- ・参加学生数が40名以上の講義科目のもの。
- ・昨年と今年で同じ授業を対象にアンケートを実施しているもの。

これら条件に従い、科目を絞り込み、純粹に授業改善に成功した科目を選出した。その結果、2つの科目の教員を成功事例として紹介する。

ケース1 専門科目講義担当 X

一人目は専門科目の講義を担当する教員 X である。その学部学科の特性にもよるが、一般に専門科目は知識を学ばせるべきものが多くなりがちである。必要事項を淡々と講義するだけでは学生の肯定評価率はあげにくい。X はそのような専門科目を担当している教員である。X の過去3年間の肯定評価率を次に示す。

<表4 教員 X の過去3年間の肯定評価率>

| | 17年度 | 16年度 | 15年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 学生数 | 85 | 89 | 43 |
| 肯定評価率 | 50.6% | 32.6% | 23.4% |

X の今年の振り返りの要点は次のようなものであった。

<表5 教員 X の2017年の振り返り概要>

学修の成功の理由として、ほぼ毎回の授業において、こちらが提出した課題に対して、グループに分かれて議論し発表させた。いわゆるアクティブラーニングを取り入れた。また、毎回、授業外での復習のための課題を与えて、次回にその回答を学生に答えさせるような課題も実施した。

単純に知識を与えるのではなく、議論というステップを踏むことにより、より深い学び、知識の定着につながっているようである。知識を得るための授業であれば、講座終了時に学生が多くを知っていれば当然成功実感は上がってくる。X の結果は、専門知識を与える授業だからアクティブラーニングはできない、大人数だからアクティブラーニングはできない、ということは単なる理由付けにすぎない、と感じさせるものである。

ケース2 教養科目担当教員 Y

二人目は、教養科目を担当する Y について紹介する。一般に教養科目は、専門科目に比べ学生の参加意欲をあげにくい。専門科目は、学生が強く望んで来た学びであるが、教養はそ

うとは限らない場合も多いからである。教養講義を担当する Y の過去 3 年の肯定評価率は表 6 であった。

＜表 6 教員 Y の過去 3 年間の肯定評価率＞

| | 17 年度 | 16 年度 | 15 年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 学生数 | 67 | 63 | 76 |
| 肯定評価率 | 56.7% | 23.8% | 26.3% |

過去 2 年間は 25% 前後であったにも関わらず、今年は 60% 近くの学生に成功実感を与えている。過去 3 年間の振り返りをまとめると、次のようになっていた。

＜表 7 教員 Y の過去 3 年間の振り返り概要＞

| 年度 | 振り返り概要 |
|-------|---|
| 15 年度 | ミニッツペーパーを使った、質疑応答や発表など授業に取り入れることを考えるが、初年度ということもあり試行錯誤が必要と感じている。 |
| 16 年度 | ミニッツペーパーの利用法に工夫を与えるが、より厳格な運用を行ったため、記入疲れを覚える学生も増えたようだ。 |
| 17 年度 | 一人の学生が記入したミニッツペーパーが学生達にとって身近な事例であったため、これが一つの問題提起になり議論が活発化していった。これが成功の大きな原因となった。 |

学生の学修意欲をかき立てるよい題材に出会ったため、それがきっかけで授業内の議論が活発化し、多くの成功実感につながったようだ。この事例は重要な示唆を含んでいる。学ばせるべき内容が、今の学生から見るととても遠い世界であっては、学生は自分のことと捉えられない。いくら将来必要であると言いつけてもそれには限界がきてしまうこともある。逆に彼らにとって今必要な、今興味ある事を出発点として学びを進めることは、意欲の活性化につながる。議論を取り入れるだけではなく、議論したくなる内容にして上手に提示することが学修の成功の大きな一歩となるようだ。

4. 本年度のまとめと次年度以降の改善策

多くの教員のアンケート結果とその振り返りを読むと、良い授業を作るポイントは「いかに学生を学びの土俵に上がらせるか（学ぶ意欲をかき立て、それを継続させるか）」であり、そのための「アクティブラーニング」であり、それを成功に導くための「良い題材とそれを上手に提示すること」、のようである。

次年度以降の作業については、昨年度からの積み残しも多い。一つがアンケートの Web 化である。受講人数と肯定評価率の相関は、今回は -0.4 程度であったが、受講人数が少ない

と肯定評価率は上がりやすい傾向があるようだ。教員が無意識に成功実感の高い授業を選んでアンケートを取ってしまった可能性も否定できないからである。

二つ目が改善に方向性を見いだせない教員へのフォローである。低いまま改善を試みることができない教員のコメントの中には、感情的なコメントが記入されることもある。このようなマイナス感情が継続した先にあるのは無気力・無関心と「こんなことはやっても意味がない、アンケートでは何もはかれない」などのネガティブな気持ちでしかない。FD推進委員会としても、このような教員のフォローをシステムティックに行えるような仕組み作りを考えていきたい。

また、演習系科目についての改革も重要である。演習系科目は、元々高い数値で、あまり変化がない。しかし、これら科目群は単にスキルやテクニックを修得するだけではなく、やり遂げるという意欲態度や問題を解決する思考判断力、人と協働する社会力などと言ったより汎用性の高い能力の修得にとって重要な役割を担う。なぜなら、このような汎用的能力は座学で効率的に学修する手法が見いだせないからである。今後、演習系科目の役割は一層重要になってくる。これら科目の見直しも今後の重要な作業の一つになる。

幸いなことに、本学のFD活動は、積極的なFD推進委員各位、多くの前向きな教員らに恵まれ、順調に改善が進んできていると言える。次年度以降も、一つずつできることから、着実に、皆で力を合わせて改善を進めていければと考えている。

以上

集計結果

- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）

2017年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

| | |
|------|----|
| 授業方法 | 講義 |
|------|----|

| | |
|------|-------|
| 回答者数 | 5,901 |
|------|-------|

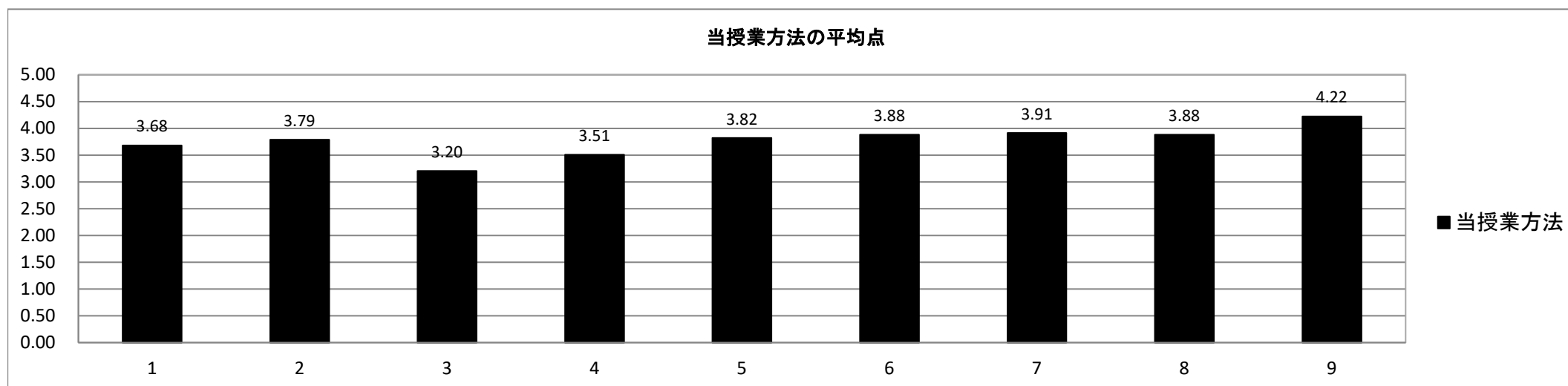
| No | 設問文 | 回答数と回答率(%) | | | | | | | | | | | 有効回答 | | 平均点 | | | ※5と4と回答した比率 | | | | | |
|----|------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|--------------------|----------|----------|----------|------|-----|------|----------|-----|------|----|-------------|---|-------|---|---|---|
| | | 5.大変 そう思う | 4 | 3 | 2 | 1 | 0.全く そう 思わない | 有効 回答 | 無効 回答 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 | | | | | | |
| 1 | 1 学習目的の理解 | 997 | 17.0% | 2,453 | 41.9% | 2,047 | 35.0% | 267 | 4.6% | 66 | 1.1% | 20 | 0.3% | 5,850 | 51 | 3.68 | - | - | - | 59.0% | - | - | - |
| | 2 授業内容の理解 | 1,235 | 21.2% | 2,540 | 43.6% | 1,712 | 29.4% | 283 | 4.9% | 47 | 0.8% | 15 | 0.3% | 5,832 | 69 | 3.79 | - | - | - | 64.7% | - | - | - |
| | 3 授業時間外学習 | 750 | 12.8% | 1,579 | 27.0% | 2,226 | 38.1% | 845 | 14.5% | 289 | 4.9% | 154 | 2.6% | 5,843 | 58 | 3.20 | - | - | - | 39.9% | - | - | - |
| | 4 学習目的の達成度 | 777 | 13.3% | 2,182 | 37.4% | 2,272 | 38.9% | 486 | 8.3% | 99 | 1.7% | 26 | 0.4% | 5,842 | 59 | 3.51 | - | - | - | 50.7% | - | - | - |
| | 5 学習をさらに深めたいか | 1,629 | 28.1% | 2,080 | 35.8% | 1,642 | 28.3% | 344 | 5.9% | 83 | 1.4% | 26 | 0.4% | 5,804 | 97 | 3.82 | - | - | - | 63.9% | - | - | - |
| 2 | 6 参加できる学習環境であったか | 1,759 | 30.2% | 2,157 | 37.0% | 1,508 | 25.9% | 308 | 5.3% | 76 | 1.3% | 24 | 0.4% | 5,832 | 69 | 3.88 | - | - | - | 67.1% | - | - | - |
| | 7 教材の適切性 | 1,791 | 30.8% | 2,195 | 37.7% | 1,496 | 25.7% | 242 | 4.2% | 76 | 1.3% | 21 | 0.4% | 5,821 | 80 | 3.91 | - | - | - | 68.5% | - | - | - |
| | 8 成績評価物の適切性 | 1,658 | 28.6% | 2,214 | 38.2% | 1,591 | 27.5% | 251 | 4.3% | 61 | 1.1% | 19 | 0.3% | 5,794 | 107 | 3.88 | - | - | - | 66.8% | - | - | - |
| | 9 開始・終了時間の適切性 | 2,790 | 47.9% | 1,777 | 30.5% | 1,070 | 18.4% | 141 | 2.4% | 29 | 0.5% | 15 | 0.3% | 5,822 | 79 | 4.22 | - | - | - | 78.4% | - | - | - |
| 3 | 10 担当教員独自設問1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 11 担当教員独自設問2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 12 担当教員独自設問3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

| 学生肯定評価率 | 率 | 学部 | 学科 | 全体 |
|------------------------|-------|----|----|----|
| 学修の成功を実感する学生の割合 | 39.9% | - | - | - |
| (その中で特に強く成功を実感する学生の割合) | 8.9% | - | - | - |

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2017年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

| | |
|------|----|
| 授業方法 | 演習 |
|------|----|

| | |
|------|-------|
| 回答者数 | 2,930 |
|------|-------|

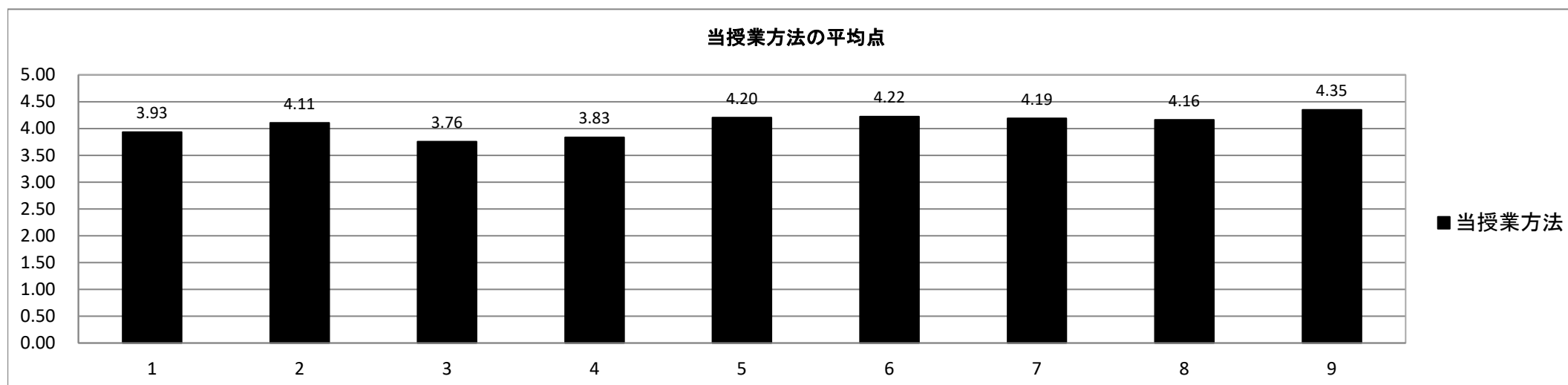
| No | 設問文 | 回答数と回答率(%) | | | | | | | | | | | 平均点 | | ※5と4と回答した比率 | | | | | | | | |
|----|------------------|--------------|-------|-------|-------|-----|--------------------|----------|----------|----------|------|----|------|----------|-------------|------|----|---|---|-------|---|---|---|
| | | 5.大変 そう思う | 4 | 3 | 2 | 1 | 0.全く そう 思わない | 有効 回答 | 無効 回答 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 | | | | | | |
| 1 | 1 学習目的の理解 | 759 | 26.4% | 1,296 | 45.1% | 722 | 25.1% | 78 | 2.7% | 11 | 0.4% | 10 | 0.3% | 2,876 | 54 | 3.93 | - | - | - | 71.5% | - | - | - |
| | 2 授業内容の理解 | 1,012 | 35.3% | 1,260 | 44.0% | 507 | 17.7% | 63 | 2.2% | 16 | 0.6% | 6 | 0.2% | 2,864 | 66 | 4.11 | - | - | - | 79.3% | - | - | - |
| | 3 授業時間外学習 | 848 | 29.5% | 976 | 34.0% | 706 | 24.6% | 227 | 7.9% | 78 | 2.7% | 39 | 1.4% | 2,874 | 56 | 3.76 | - | - | - | 63.5% | - | - | - |
| | 4 学習目的の達成度 | 686 | 23.9% | 1,231 | 42.9% | 783 | 27.3% | 146 | 5.1% | 17 | 0.6% | 9 | 0.3% | 2,872 | 58 | 3.83 | - | - | - | 66.7% | - | - | - |
| | 5 学習をさらに深めたいか | 1,270 | 44.6% | 1,017 | 35.7% | 466 | 16.4% | 70 | 2.5% | 19 | 0.7% | 8 | 0.3% | 2,850 | 80 | 4.20 | - | - | - | 80.2% | - | - | - |
| 2 | 6 参加できる学習環境であったか | 1,345 | 46.8% | 991 | 34.5% | 420 | 14.6% | 79 | 2.7% | 29 | 1.0% | 10 | 0.3% | 2,874 | 56 | 4.22 | - | - | - | 81.3% | - | - | - |
| | 7 教材の適切性 | 1,253 | 43.6% | 1,070 | 37.2% | 433 | 15.1% | 85 | 3.0% | 24 | 0.8% | 8 | 0.3% | 2,873 | 57 | 4.19 | - | - | - | 80.9% | - | - | - |
| | 8 成績評価物の適切性 | 1,210 | 42.2% | 1,065 | 37.2% | 479 | 16.7% | 83 | 2.9% | 18 | 0.6% | 11 | 0.4% | 2,866 | 64 | 4.16 | - | - | - | 79.4% | - | - | - |
| | 9 開始・終了時間の適切性 | 1,600 | 55.8% | 802 | 28.0% | 368 | 12.8% | 57 | 2.0% | 28 | 1.0% | 10 | 0.3% | 2,865 | 65 | 4.35 | - | - | - | 83.8% | - | - | - |
| 3 | 10 担当教員独自設問1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 11 担当教員独自設問2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 12 担当教員独自設問3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

| 学生肯定評価率 | 率 | 学部 | 学科 | 全体 |
|------------------------|-------|----|----|----|
| 学修の成功を実感する学生の割合 | 54.2% | - | - | - |
| (その中で特に強く成功を実感する学生の割合) | 13.9% | - | - | - |

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2017年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

| | |
|------|-------|
| 授業方法 | 実験・実習 |
|------|-------|

| | |
|------|-----|
| 回答者数 | 944 |
|------|-----|

| No | 設問文 | 回答数と回答率(%) | | | | | | | | | | | 有効回答 | | 平均点 | | | ※5と4と回答した比率 | | | | | |
|----|------------------|--------------|-------|-----|-------|-----|-------|----|------|----|------|--------------------|------|----------|----------|----------|----|-------------|----|----------|----|----|----|
| | | 5.大変 そう思う | | 4 | | 3 | | 2 | | 1 | | 0.全く そう 思わない | | 有効 回答 | 無効 回答 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 | 授業 方法 | 学部 | 学科 | 全体 |
| 1 | 1 学習目的の理解 | 238 | 25.4% | 425 | 45.4% | 244 | 26.0% | 25 | 2.7% | 5 | 0.5% | 0 | 0.0% | 937 | 7 | 3.92 | - | - | - | 70.8% | - | - | - |
| | 2 授業内容の理解 | 337 | 36.1% | 416 | 44.5% | 159 | 17.0% | 20 | 2.1% | 1 | 0.1% | 1 | 0.1% | 934 | 10 | 4.14 | - | - | - | 80.6% | - | - | - |
| | 3 授業時間外学習 | 270 | 28.8% | 318 | 34.0% | 222 | 23.7% | 68 | 7.3% | 26 | 2.8% | 32 | 3.4% | 936 | 8 | 3.69 | - | - | - | 62.8% | - | - | - |
| | 4 学習目的の達成度 | 239 | 25.6% | 400 | 42.8% | 244 | 26.1% | 42 | 4.5% | 8 | 0.9% | 2 | 0.2% | 935 | 9 | 3.87 | - | - | - | 68.3% | - | - | - |
| | 5 学習をさらに深めたいか | 359 | 38.5% | 357 | 38.3% | 187 | 20.1% | 18 | 1.9% | 8 | 0.9% | 3 | 0.3% | 932 | 12 | 4.11 | - | - | - | 76.8% | - | - | - |
| 2 | 6 参加できる学習環境であったか | 430 | 45.9% | 349 | 37.3% | 130 | 13.9% | 14 | 1.5% | 10 | 1.1% | 3 | 0.3% | 936 | 8 | 4.25 | - | - | - | 83.2% | - | - | - |
| | 7 教材の適切性 | 385 | 41.1% | 368 | 39.3% | 157 | 16.8% | 16 | 1.7% | 6 | 0.6% | 4 | 0.4% | 936 | 8 | 4.17 | - | - | - | 80.4% | - | - | - |
| | 8 成績評価物の適切性 | 354 | 37.9% | 375 | 40.1% | 171 | 18.3% | 26 | 2.8% | 3 | 0.3% | 6 | 0.6% | 935 | 9 | 4.10 | - | - | - | 78.0% | - | - | - |
| | 9 開始・終了時間の適切性 | 435 | 46.6% | 312 | 33.4% | 152 | 16.3% | 25 | 2.7% | 7 | 0.7% | 3 | 0.3% | 934 | 10 | 4.21 | - | - | - | 80.0% | - | - | - |
| 3 | 10 担当教員独自設問1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | 11 担当教員独自設問2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | 12 担当教員独自設問3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |

| 学生肯定評価率 | | 率 | 学部 | 学科 | 全体 |
|------------------------|--|-------|----|----|----|
| 学修の成功を実感する学生の割合 | | 53.9% | - | - | - |
| (その中で特に強く成功を実感する学生の割合) | | 14.8% | - | - | - |

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

